

第12期千葉県生涯学習審議会第6回会議・平成30年度
第3回千葉県社会教育委員会議事録

平成30年8月31日(金)

午後2時～3時30分

千葉県庁議会棟 第6委員会室

出席委員(敬称略五十音順)

大田 紀子	重栖 聡司	久留島 浩
高田 悦子	高橋 みち子	田村 悦智子
福田 正明	三輪 睦子	望戸 千恵美

出席事務局職員

千葉県教育委員会教育長		澤川 和宏
千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長		吉野 光好
千葉県教育庁教育振興部文化財課長		古泉 弘志
さわやかちば県民プラザ所長		藤田 武
千葉県立中央図書館長		石橋 芳継
千葉県立美術館長		太田 章
千葉県立中央博物館長		萩原 恭一
千葉県立現代産業科学館長		上田 敏彦
千葉県立関宿城博物館長		谷鹿 栄一
千葉県教育庁教育振興部生涯学習課 主幹兼学校・家庭・地域連携室長		常世田敏彦
主幹兼社会教育振興室長		松田 裕二
学校・家庭・地域連携室	副主幹	真下 誠
社会教育振興室	社会教育班	主席社会教育主事兼班長
		山内 一浩
同	社会教育主事	齋藤 信
同	社会教育主事	後藤 知憲
同	社会教育主事	小泉 憲治
同	社会教育主事	添田 拓也
同	社会教育主事	峯 浩之
同	社会教育施設班	社会教育主事
		角田 智之
千葉県教育庁教育振興部文化財課 主幹兼学芸振興室長		植野 英夫
学芸振興室	副主幹	乃一 哲久
さわやかちば県民プラザ	主査	山崎 亨
葛南教育事務所指導室	社会教育主事	橋本 哲史

東葛飾教育事務所指導室	社会教育主事	角田 敏雄
北総教育事務所指導室	社会教育主事	高瀬 裕
同	社会教育主事	菅井香代子
東上総教育事務所指導室	社会教育主事	久我 康之
同	社会教育主事	行木 邦光
南房総教育事務所指導室	社会教育主事	松本 幸雄

1 開 会

2 あいさつ

- (1) 吉野生涯学習課長
- (2) 重栖生涯学習審議会長

3 議 事

- (1) 県立博物館・美術館の今後の在り方について【生涯学習審議会の取り扱い】
〔事務局から説明〕資料参照

議 長 次第の議事1、県立博物館・美術館の今後の在り方について、審議を始めたい。

前回、議事の最後に、委員の皆様の見解を反映した第一次答申案を作成するように事務局の方に指示した。事前に委員の皆様も御覧いただいていると思うが、事務局から、それらを踏まえて、第一次答申案について時間をとって説明していただきたい。では、事務局に説明をお願いします。

事務局 【事務局からの説明】資料参照

議 長 ただいまの説明で分かるとおり、各委員の皆様からいただいた意見は、この案にかなり細かく反映しており、それに沿った説明もあった。

また、繰り返しになるが、この案については、意見も伺い、文言等の修正も事前に行っている。従って、今日の議事の進行であるが、まずは第一次答申案を固めていきたい。その後、委員の皆様から、これ以降のことについて自由な意見を頂戴する時間としたい。

まず、第一次答申案についてであるが、委員の皆様から、これだけは追加、修正したいというものがあつたら、この場を出していただけたらと思う。

委員 改めて気になることが1つある。例えば、16ページのアのように「千葉県の自然・文化に関する資料」と書いてあるところと、「文化・歴史・自然の資料」と書いてあるところの2通りがある。やはり、「歴史」という言葉を入れたほうがよいと考える。文化と歴史とでは微妙に違うので、自然・歴史・文化に関する資料、あるいは自然・歴史・文化を愛する人材などと、3つはセットで記述した方がよいと思った。統一した方がよい。

議長 機能強化については、3つが並べて書いてある。統一することについていかがか。

事務局 今、委員の指摘を受けて、修正は可能だと考える。

議長 では、そのように、統一するという事で委員の皆さんもよろしいか。他はよろしいか。

議長 では、今、指摘していただいた部分を、事務局で早急に修正していただき、この後、もう1回提案してもらい、そこで第一次答申としてまとめたいと思うが、大丈夫か。

事務局 対応可能である。

議長 では、そのように進めていただきたい。

では、第一次答申については、部分修正するという事になったので、今後は、この先の事について、自由に委員の皆様の意見をお伺いしたい。例えば今後、こういう博物館・美術館であってほしいとか、あるいは、本日は各館長さんが全員、審議会に参加しているので、運営面について、このようにやってもらいたい等があったら、答申案を踏まえながら、自由な意見をお伺いしたい。どなたからでもけっこうなので、自由に出していただきたい。

委員 答申の16ページのウのところに「体験を重視した生涯学習の機会を提供」とある。特に障害のある子供たちにとっては、体験ができることは、とてもよいことなので、是非、答申を生かし、特色のある体験が味わえる博物館ができていくとよいと思った。

委員 答申の中でフィールドワークについて触れているが、これまでも、親子で参加できるものも企画されて、とても好評であった。今後、いろいろな形で地域に愛される博物館・美術館になっていくためには、若い世代の取

り込みがさらに必要だと思っている。親子で参加となると、親の世代も、また引き続き美術館・博物館に足を運ぶことになるかと思うので、是非地域の学校と上手に連携をとっていただきながら、子供たちに上手に広報し、親子で足を運ぶような、今後もそんな地域に愛される美術館・博物館であっていただきたい。

また、昨今、若い世代の思いがけないムーブメントで美術館・博物館がにぎわうチャンスがあるように感じている。近年、刀剣が非常に人気で、20代、30代の若い女性たちが、多数、美術館に押し寄せたということを知っている。だから、是非、時代の流行にも敏感になって柔軟に対応してほしい。千葉県には多くの資料があると思うので、そういったところも余さず捉えて、千葉のよさをどんどん発信していただきたい。

委員

学校現場の立場から意見を述べる。私の勤務する学校では、今年も秋に「房総のむら」に行くことになっている。担当から体験活動を予約してきたという報告を受けて、体験活動の種類も年々増えていることや、活動の内容や流れも随分工夫されていると感じた。私も行くのを大変楽しみにしている。このような取り組みが子供から保護者にも伝わって、「今度は家族で行ってみよう」ということにも繋がっていくと思っている。

それから、前回の審議会で中央博物館に行った折、少し時間があつたので、外の生態園を見させていただいた。その時に、地域の学校の子供たちが、植物や昆虫等の観察について、職員から時間をかけて御指導いただいている場面に出会った。本当によい取組だと思った。すぐに集客が増えるわけではないだろうが、そういった地道な取り組みがこれからも求められていくのではないかと考える。

議長

ここでいただいた意見は事務局でしっかり記録をして、今後に生かせるようにしていただきたい。委員の他の皆様からも御意見を頂戴できたらと思う。

委員

前回、中央博物館のバックヤードを見学させていただいた。価値ある資料を蓄積して未来に繋げていくことを通し、博物館が県民や市民の皆さんの生涯学習を支援していることがよく分かった。今後とも引き続き、博物館、図書館、文書館、それぞれの専門性と特色を生かしつつ、連携や協力を強めていき、それによって千葉に暮らす人たちを結び付けていながら、それぞれの事業に取り組むことが大事だと感じている。

委員

私もこの間、県立中央博物館のバックヤードを視察させていただいて、そこにたくさんのが保存されていることを知り、改めて博物館や美術

館という施設は、展示して見せるだけではなくて、それらをきちんと保存して未来に伝えていくという役割が重要なことを再認識した。そういうことについて、知らない方々が多いのではないかと思うので、小さい頃から子供たちを連れて行ったり、学校教育の中でも教えたりして、そういうことが分かるような教育をしていくことも1つの方法だと思う。

また、前にも言ったが、来場者数や来館者数などで、どうしても評価されてしまいがちになるが、それだけではないということを県民一人一人が理解できるように、うまく情報発信していくことも大事ではないか。

単純に、いろんなブームに乗ったり、博物館や美術館を観光地化したりして、集客を図ることも、国内には例としてあるが、それも1つの方法だとは思いますが、それだけではないということを今回改めて感じた。

委員

先程の文言の修正については、今頃になって申し訳なく思う。しかし、全体としては非常によくできた答申になっていると思っている。

現在、博物館が抱えている問題点は、答申案のいろいろな部分に、概ね全て列挙されていると、改めて読ませていただいて思った。

個人的な感想となるが、千葉に奉職してから30年になるが、最初に千葉県に来たとき、千葉県の11館の県立博物館を回ることが、自分や家族にとって、とても楽しみだった。それぞれの地域の特性を生かした博物館をつくって運営してきたという千葉方式。その上で、学芸員の数もかなりたくさん確保することができた。それはある種、千葉の特色だった。そういう意味では果たしてきた役割は大きいと思う。それが時代の変化により、大きく変わり始めていて、今回のような、千葉県立中央博物館を中核とする新しい博物館の在り方を考えるという段階に来たと思っている。

いくつか気になっていることがある。地域社会について30年前に調査したときには、地域にまだいっぱい資料が残っており、町や村でそれを保存していた。逆に言うと、そのかわり統合されていないので、情報がお互いに共有できていないというデメリットもあった。しかし、そういう豊かな地域社会が残っていたと思っている。今のように、どこへ行っても同じコンビニがあり、同じファミリーレストランがあるというような情景ではなくて、それぞれの個性を持った地域社会があった。それが近年、大きく変わってきた。地域社会の変化は、平成の大合併以降、急速に進んだということは、おそらく間違いないだろう。

私は、どこの市だとは言わないが、歴史的な地名をなくして新たな地名をつけるというのはどうしても抵抗がある。歴史的な地名をなくすというのは、それこそ致命的だと思っている。海外では全く考えられないことである。自分たちが生きてきた地域の地名というのは自分たちの歴史とか文化を代表したものなのだ。それが近年ものすごく進んできている。御存じ

のように、市町村の数は大きく減って、それは行政的な効率という名のもとで進んできたことであり、一定の効果はあるわけだが、同時に地域の社会、あるいは地域の博物館などで、地域社会が持ってきた歴史的、文化的な資産や資源というものを活用して、自分たちのものにするという意味においては、けっこう危機的な状況だと思っている。

その中で、こういう形で千葉県が博物館を新しく考えるというのであれば、地域の博物館の役割を、もう1度見直すということと、地域の博物館に対する支援を本格的にやらないといけないだろうと考えている。

2つ目は、博物館の機能を考える時、既に博物館が持っている資源、つまり資料というものをこれからも大事にしていかなければならないということと言うまでもないことだが、博物館に納められてない部分も膨大に残っていることを忘れてはならないということだ。私が千葉県史編さんをしてきた過程でも、実は現地に置いてきた資料がいっぱい存在した。そういうものをそれぞれの地域の博物館で調査し、保全をする。だから、博物館にあるものだけではなくて、地域社会にあるものもカバーしなければいけなくなっている時期であると考えている。さらには、調査して保全をするだけではなくて、研究した後、それを活用していかなければならないとも思い始めている。今日も他の委員から同様の発言があったが、バックヤードにどんなものがあるのか、子供たちにそれをどのように見せるのか、県民にどんなものがあるのかを見せるということが実は重要で、それによって、初めてその地域に住んでいる人たちが、自分たちの持っている資料をこれからどうしたらよいか分かってくるのだと考えている。だから、保存と活用というのは本当に両輪だと思っており、それが重要な意味を持つと考える。

それから3つ目は、博物館の持っている経済的効果のことだ。これはとても重要なことである。経済的にも博物館が果たす役割が大きいことを、ユネスコも認めている。博物館がさまざまな活動をする上で、例えば、観光や地域振興の中で、博物館が果たす役割がますます重要になってくると思う。それを他の博物館機能と、どう両立させるかということが重要ではないかと思う。

観光は確かに重要だと思うが、観光に重きを置くのではなく、地域の人たちにとっての博物館というところから出発するほうがよいと考える。

私は、よい博物館というのは、地域の人たちが何回でも訪れる博物館であって、そうなれば、実は観光客も訪れると思っている。観光のために博物館を造ってしまったら、それは観光客をターゲットにすることになる。海外の人たちに伝えるというのは非常に大変な準備が必要となる。大変な割には、中身は確実に薄くなってくる。なぜかというと、字数が減るからだ。説明はどうしても短くならざるをえない。日本の歴史を知らない方に教えるわけだから大変なことなのだ。その努力をするのであれば、むしろ

地域の子供たちのために本当に分かりやすく、きちんと研究調査に基づいた成果を還元していくということから始めて、地域の人たちに愛される博物館を造ることがおそらく次の世代に繋がっていく。これから県立博物館がその中核になっていただきたいと思っている。そのように答申に書いてあると私は思っている。

さらにもう1つの役割としては、これからの少子高齢化に関する対応だ。少子高齢化が進むことは、明白な事実であり、私たちの世代が博物館を本当に活用する時代は10年後には来る。博物館や公民館や文書館を使わなければならないような時代が来るはずであるが、博物館がそれに向けて対応できているかどうかというと少し、問題がある。高齢化社会の中で何ができるかということを実際に考えないといけない時期に来ている。そして一方では、最初に申したように、将来の子供たちのために何ができるか、少なくなった子供たちのために何ができるかを考えねばならない。子供たち・高齢者にとって、それぞれに何ができるかということをきちんと分けながら運営していく必要がある。それぞれにどうしても違う側面が必要になってくることから、博物館に求められることがすごく多くなる。

最後に、その博物館に対して求められることが多くなることにどう対応したらよいかといえば、やはり基本的には人材をきちんと育成して、人材を配置していくことしかない。行財政改革のもとで文化を切り捨てるのではなく、博物館に多くの人材を置くということを、千葉県として、これからよい博物館の体制をとるのであれば必要となるだろう。答申にも書いてあるが、是非それを維持していただきたいと思っている。

議長 貴重な意見、ありがたい。かなり大きな視点から指摘をいただいた。意見として事務局のほうでしっかり受け止めてほしい。

委員 前回の審議会の後に時間があつたので、博物館を取り囲む青葉の森を散策した。博物館内を見るだけのワンウェイだけでなく、建物の外側へ行くと、鳥がいて、虫がいる。鳥の見える小屋という建物に行ったら、小さな子供が、「あっ、タヌキがいた。」と喜びの声を上げていた。見たら、タヌキの親子が3匹ぐらい、サーッと走っていった。まさしく生きている本物のタヌキを、子供が自分の双眼鏡で見っていた。こういうものは、立体的にワンウェイとか、ツーウェイと言いますが、非常によい環境を備えている。それをうまく利用するとよいと思う。今、都市部では、花も咲いてないし、木に鳥もいないのだ。その日は、たまたまきれいな鳥がいて、幼い子供さんが一生懸命見ていたが、そこには説明する優しいお兄さんがいて、きちんと名前を説明していた。また、動物や花の名前も1つ1つ、きちんと掲示してあつた。とても丁寧に行っていると思う。実は千葉テレビへ入って

50年、私はこれまでいろいろと見てきたが、貴重なそういう光景に触れ、非常に努力していると感じた。

委員 前回は、参加できなかったが、皆さんの意見が答申にすごく組み込まれていてよいと思った。また、自分の専門分野ではないところですごく勉強させていただいたし、自分でも、これからさらにアンテナを広げて、いろんな博物館に行って、どういうものだろうかということも実際ちょっと研究してみたいと思った。

一般市民として感じることは、先ほど久留島委員が発言した内容に同感であり、「一度行ったら、もう行かなくていいや」というのではなくて、やはり何度でも何度でも足を運ぶということが望ましいと考える。「楽しいよね」、「あそこへ行くとまた違う情報があって、さらに歴史を感じられるよね」とか、いろんなことを感じられる場所であってほしいと思っている。箱の中に閉じこもっている博物館ではなくて、こうやって見てみると「やはり外に出ていっている」ということも感じられるので、とてもよい傾向にあると私は感じている。

議長 全員の委員の皆様から意見をいただいたが、他にあるか。
では、ないようなので、事務局は、答申案の修正はどのようになっているか。

事務局 修正できている。

議長 それでは、確認したい。

事務局 先ほど委員から指摘のあった部分の修正文だが、今、赤と青で書いたものをお手元に届けた。指摘の箇所は、平成16年度に設定した歴史的な事実を書いたものだったが、それに「歴史」を加えて自然・歴史・文化という3つのキーワードを十分に生かしてほしいという意見であったので、16ページの本文を「平成16年度に全館で協議の上、下記のとおり設定したものをこのたび次のように改めます」と修正し、さらに、以下の指摘2か所について歴史を加えた形にさせていただいた。確認いただきたい。

議長 意見は、いかがか。指摘いただいた委員は、これでよろしいか。

委員 なぜ、これを申し上げたかという、前文となる1番目の「第一次答申に際して」がそうになっていたのでも申し上げた。これでけっこうである。

議 長 他の委員の皆様、いかがか。

議 長 では、これを原案として第一次答申としたい。
事務局は、次第の「その他」はあるか。

事務局 特にない。

議 長 では、今、手元に配られている本文を第一次答申として、澤川教育長に
お渡しすることとしたい。
以上で一旦議事は終了して、進行を事務局に返したい。

4 報 告

5 答申手交 ※重栖会長から澤川教育長へ、答申を手交した。

6 諸 連 絡

7 閉 会